

鳥山城

旧跡まっぶ



鳥山城

鳥山城は応永25年(1418)、那須一族の沢村五郎資重によって築城されたとされています。それ以後、天正18年(1590)に当主那須資晴が、小田原遅参を理由に豊臣秀吉によって改易されるまで那須氏の居城となりました。

その後、織田氏、成田氏、松下氏、堀氏、板倉氏、那須氏、永井氏、稲垣氏と頻りに城主の交代が行われ、万治2年(1659)、時の城主であった堀親昌によって、城の東山麓に新たな居館(三の丸)が築かれ、以後の藩政機能はこちらに移ることになりました。

享保10年(1725)譜代大名の大久保常春が江州(滋賀県)より移封され、その後八代、約140年にわたって大久保氏が城主になり、城は明治を迎え廃城となりました。



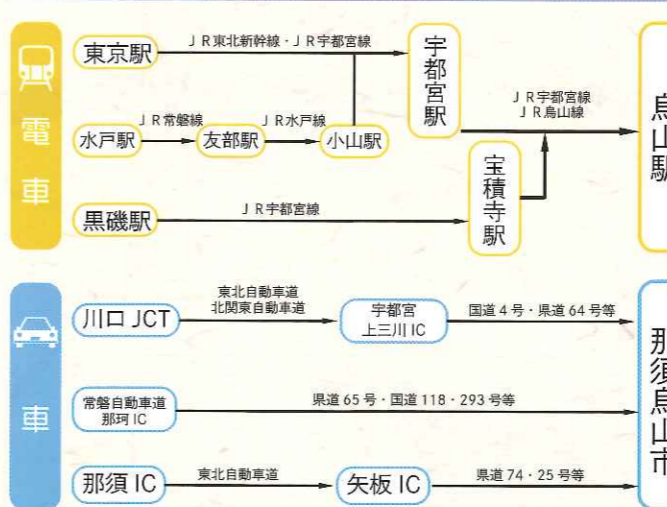
今も歴史を刻む石垣。空堀や土塁も現存する

鳥山城主年表

城主名	称号	在任期間	城主名	称号	在任期間	城主名	称号	在任期間
那須氏	1 資重	沢村五郎 1418 ~ 1434 (応永25年) (永享6年)	成田氏	3 氏宗	左馬介 1617 ~ 1622 (元和3年) (元和8年)	大久保氏	2 昭賢	摂津守 1710 ~ 1725 (宝永7年) (享保10年)
	2 資持	越後守 1434 ~ 1467 (永享6年) (応仁元年)		1 親良	美作守 1623 ~ 1627 (元和9年) (寛永4年)		1 常春	佐渡守 1725 ~ 1728 (享保10年) (享保13年)
	3 資実	伊予守 1467 ~ 1494 (応仁元年) (明応3年)		2 親昌	〃 1627 ~ 1637 (寛永4年) (寛永14年)		2 忠胤	山城守 1728 ~ 1759 (享保13年) (宝暦9年)
	4 資房	修理大夫 1494 ~ 1516 (明応3年) (永正13年)		1 重矩	内膳正 1637 ~ 1672 (寛永14年) (寛文12年)		3 忠郷	伊豆守 1759 ~ 1769 (宝暦9年) (明和6年)
	5 政資	巻岐守 1516 ~ 1546 (永正13年) (天文15年)		2 重種	〃 1672 ~ 1673 (寛文12年) (延宝元年)		4 忠喜	山城守 1769 ~ 1805 (明和6年) (文化2年)
	6 高資	修理大夫 1546 ~ 1551 (天文15年) (天文20年)		1 資祇	遠江守 1673 ~ 1681 (延宝元年) (天和元年)		5 忠成	佐渡守 1805 ~ 1827 (文化2年) (文政10年)
	7 資胤	〃 1551 ~ 1583 (天文20年) (天正11年)		2 資徳	与一 1681 ~ 1687 (天和元年) (貞享4年)		6 忠保	〃 1827 ~ 1848 (文政10年) (嘉永元年)
	8 資晴	〃 1583 ~ 1590 (天正11年) (天正18年)		永井直敬	伊賀守 1687 ~ 1702 (貞享4年) (元禄15年)		7 忠美	〃 1848 ~ 1864 (嘉永元年) (元治元年)
織田信雄			永井直敬			1864 ~ 1869 (元治元年) (明治2年)		
成田氏	1 氏長	下総守 1591 ~ 1595 (天正19年) (文禄4年)	(比企長左衛門)			幕府代官 1702 ~ 1703 (元禄15年) (元禄16年)		
	2 長忠	左衛門尉 1595 ~ 1616 (文禄4年) (元和2年)	1 重富	対馬守 1703 ~ 1710 (元禄16年) (宝永7年)				



アクセス 宇都宮市まで約50分 那須町まで約60分
真岡市まで約50分 ※交通状況により変動いたします



タクシー 鳥山合同タクシー TEL0287-82-2144/TEL0120-84-2144
鳥山観光タクシー TEL0287-82-2561

山あげ会館

山あげ祭に使用する屋台を常設する大ホール、本物の5分の1のサイズで上演する動物いじさんのミニチュア劇と競走、2階大スクリーンでは、迫力満点の映像が観覧できる。物産コーナーではお土産物も充実。企画展も見どころの一つ。
金井2-5-26 TEL0287-84-1977
入館料 大人250円 小人100円
(団体10名以上 200円)
定休 火曜(祝日の場合は翌日)
営業時間 9時~16時(最終観覧は延長)
多目的トイレ 大型バス駐車場



龍門の滝

江川にかかる高さ約20m、幅約65mにわたって流れる滝。中流にある大穴「勇金(おがま)」には大蛇が住むという伝説が名所の由来。滝の上を「龍門山」が通り、人気の写真スポット。また滝壺間近まで降りることができ、マイナスイオンを浴びながら、四季の自然を楽しめる。
〒414 TEL0287-83-2765
(龍門ふるさと民芸館)
見学自由
大型バス駐車場(一般車両専用)
身障者トイレ(龍門ふるさと民芸館内)



どうくつ酒蔵

第2次世界大戦末期に製糖工場として作られたもので、洞内は縦横3本横杭5本の総延長600mにも及び、年間通して一定の温度を保つため、ここで熟成された酒は上品でまろやかだと評判。オーナーズボトルも人気。その独特の雰囲気から、コンサートや各種のロケにも使用される今話題のスポット。
神長 TEL0287-83-1221
(鳥峰酒造)
見学無料 要予約(開放日あり)
大型バス駐車場



鳥山和紙会館

鳥山和紙の起源は、奈良時代まで遡ることができ、以来、捨えることなく和紙が活かされてきた。和紙会館では和紙製品の展示即売や和紙に関する資料を展示しています。また、鳥山和紙会館の建物は、市の近代化遺産として位置づけられている。
中央 TEL0287-82-2100
見学無料
定休 火曜
営業時間 9時~17時30分



烏山城ゆかりの旧跡を のんびり散策



①宮原八幡宮本殿

明応2年(1493)烏山藩主那須資実が城域拡張を行う際、現在地に移転遷宮したと伝えられています。本殿は三間社流造。永禄3年(1560)那須資胤が寄進した内陣中央扉が現存します。平成5年~8年に保存修理が行われました。



②太平寺仁王門

烏山城主堀親昌が寛文元年(1661)、亡父親良の菩提を弔うため東江寺を建立した時の建築で、寛文12年、信州飯田へ転封の際に太平寺に寄進移築されました。市内唯一残る様門で、仁王像を安置しています。



③神長門(烏山城裏門)

烏山城主堀親昌が寛永17年(1640)、三の丸を築いた際の烏山城裏門がこの門です。高さは4m53cm。正面幅は7m20cm。明治18年、現在地に移築されました。



④那須家六代の墓(天性寺)

天性寺墓地土段に墓所があります。延宝3年(1675)、烏山城主板倉重種が堀内拡張のため、旧地福泉坊から現在地に移転されました。下那須氏のものとは推定されますが、墓石名は風化により判読できません。



⑤大久保常春公木像(寿亀山神社)

烏山城主大久保常春は、8代将軍徳川吉宗によって老中加判の列に加えられました。享保13年(1728)9月8日、現職のまま江戸藩邸で病没しました。享年54歳でした。吉宗は常春の死を悼み、衣冠束帯姿のこの木像と堂殿を作らせたとされています。



⑥耕便門の碑

烏山藩主大久保忠成の治世から殖産の一環として新田開発のための隧道工事が進められ、文政9年(1826)6月完成。約40haの水田が開かれました。碑は隧道出口に建ち、碑文とは藩主のものです。



⑦大久保次郎左衛門の墓碑(妙光寺)

大久保次郎左衛門は、天明8年(1788)、烏山城主大久保家の一族として生まれました。6代城主忠保の時代、烏山藩立て直しのために烏山藩家老の菅谷八郎右衛門や天性寺の円応和尚らは、二宮尊徳に教えを請い、「烏山仕法」を導入しました。菅谷家老が隠居、諱喪の処分を受けてからは、家老としての重責を担い、「烏山仕法」の推進に尽力しました。妙光寺には、烏山城主大久保家に係る市指定文化財として、一字一石経も保管されています。



⑧稲積城城址(稲積神社)

南北約800m、東西300mの規模を持つ、御城、中城、外城の三郭からなる連郭式の城郭。天仁2年(1109)那須氏2代の資道の築城といわれています。15世紀初頭、那須与一宗隆の子孫である資氏の子資之と資重が互いに対立して上那須と下那須に分裂し、応永21年(1414)に初代烏山城主である弟の沢村五郎資重が稲積城を修築し、烏山城に移る迄永25年(1418)まで居城としていました。空堀や土塁などの遺構はほとんど残っていませんが、小宇等の地名にその名残が残っています。現在は、城の北端に平安時代の永元元年(1165)、須藤宗資が甲州の稲積大明神を分祠し創建した稲積神社があります。